伊予市埋蔵文化財発掘調査報告書　第17集　上三谷篠田・鶴吉遺跡２次

上三谷篠田・鶴吉遺跡２次

―　ＪＲ南伊予駅前ふれあい広場整備工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書　―

2024年3月

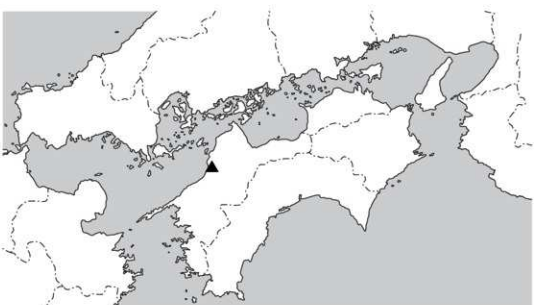
愛媛県伊予市教育委員会
国際文化財株式会社

愛媛県伊予市教育委員会
国際文化財株式会社

上三谷篠田・鶴吉遺跡２次

―　ＪＲ南伊予駅前ふれあい広場整備工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書　―



2024年3月

愛媛県伊予市教育委員会
国際文化財株式会社

序　文

愛媛県のほぼ中央に位置する伊予市は、古くから人類の生活の場となっており、穏やかな瀬戸内海と険しい四国山地によって育まれた豊かな風土が形成されてきました。これまで市内では貴重な埋蔵文化財が多数確認されております。

上三谷篠田・鶴吉遺跡は、伊予市上三谷から伊予郡松前町まで、市境を越えて広がる巨大な遺跡です。JR 車両基地の建設に伴う発掘調査 (1 次調査) において、古墳時代の大規模な集落跡や、縄文時代から中世にかけての多種多様な考古資料が報告されています。

この度、JR 南伊予駅前ふれあい広場の建設に伴い、再びこの地が調査されることとなりました。

狭小な調査区で検出した遺構や出土遺物は、決して多くありませんが、古墳時代から中世にかけての当地域における先人たちの暮らしぶりを垣間見ることができる、貴重な手がかりとなりました。さらに、南伊予駅の南側にも、埋蔵文化財が広がる可能性が高いことが明らかとなりました。

本報告書が、今後の地域における歴史研究の資料として、多くの方々にご活用いただければ幸いです。

最後に、御協力いただきました愛媛県教育委員会、事業者、発掘調査に従事いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

令和６年３月 31 日

伊予市教育委員会
教育長　上岡　孝

例　言

1．本報告書は、JR 南伊予駅前ふれあい広場整備工事に伴う、上三谷篠田・鶴吉遺跡 2 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．本調査は、伊予市教育委員会の委託を受けた国際文化財株式会社が実施した。
3．本調査の発掘期間は令和 5 年 12 月 18 日から令和 5 年 12 月 26 日である。
4．本調査は伊予市教育委員会の指導、助言のもと持田透 (国際文化財株式会社) が行った。
5．本報告書の執筆と編集は伊予市教育委員会の指導、助言のもと持田が行った。
6．本報告書では以下の地図を調整、編集した。
　伊予市地形図 (1：2500)
7．本報告書で示す座標・方位は国土座標第Ⅳ系 (世界測地系)、水準値は東京湾平均海水面 (T.P.) に基づく数値である。
8．本報告書で掲載している遺物の縮尺は 1/3 である。
9．遺物の実測、トレースなどは持田が行った。
10．本報告書に掲載した写真は、遺構を持田、遺物を横山亮 (オフィスメガネ) が撮影した。
11．調査に関わる記録や出土した遺物は、伊予市教育委員会にて保管されている。

凡　例

1．写真図版の縮尺は任意である。
2．本報告書に掲載した遺物番号は実測図、観察表、写真図版にそれぞれ対応している。
3．本報告書で使用した土色は、以下を使用した。
　『新版　標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局監修

本　文　目　次

第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の体制 …… 2
　第３節　調査の方法 …… 2
第２章　調査地域の環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の概要 …… 5
　第１節　基本層序 …… 5
　第２節　遺構 …… 6
　第３節　遺物 …… 9
第４章　まとめ ……11

挿　図　目　次

図１　調査地の位置 …… 1
図２　調査区位置図 …… 2
図３　伊予市周辺地形概要図 …… 3
図４　調査区北壁 …… 5
図５　遺構実測図１ …… 7
図６　遺構実測図２ …… 8
図７　遺物実測図 ……10

挿　表　目　次

表１　掲載遺物観察表 …… 9

図　版　目　次

図版１　第１遺構面　全景 (東から)
　　調査前風景 (北から)
　　調査地遠景 (東から)
　　第１遺構面　検出状況 (東から)
　　第１遺構面　SD02(北から)
図版２　第２遺構面　全景 (東から)
　　第２遺構面　検出状況 (東から)
　　第２遺構面　SK08(東から)
図版３　調査区北壁
　　調査区東壁
図版４　出土遺物

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

「地域住民の憩いの場」「市外からの来訪者と地域住民が交流する場」「サイクリングコースの観光スポット」として、令和２年３月に開業した JR 南伊予駅前ふれあい広場を整備することとなった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内であることから、工事に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を行うこととなった。

当該地は、伊予市上三谷甲 241-1 で、上三谷篠田・鶴吉遺跡に該当する。本調査地は、JR 予讃線南伊予駅の南西に位置し、調査に至る時点では田地であった。また、標高 455.5 m の谷上山などからなる山地より北西方向になだらかに広がる扇状地の扇端に近い沖積平野に位置し、南に大谷川が流れる。周辺には堤池などのため池を擁する水田地帯である。

文化財保護法第 94 条に基づく通知を受け、対象地のうち 32.29㎡の発掘調査が必要とされた。調査は、伊予市教育委員会が国際文化財株式会社に業務委託し、伊予市教育委員会の指導・立会のもと調査が行われた。

図１　調査地の位置

第２節　調査の体制

以下の体制で令和５年 12 月 18 日から令和５年 12 月 26 日まで現地調査を行った。

監督員　伊予市教育委員会　島崎達也
調査員　国際文化財株式会社　持田　透
測量員　国際文化財株式会社　諸隈和彦

第３節　調査の方法

本調査は、調査区を仮設フェンスで囲い、安全を確保してから行った。掘削は 0.7m までを機械によって行い、それ以降は遺物や遺構を注意しながら掘り下げていった。層序の変化で遺構検出を行い、結果としては２つの遺構面を確認した。

記録はデジタルカメラによる写真撮影、トータルステーションを利用した測量を行った。壁面は写真計測で行った。

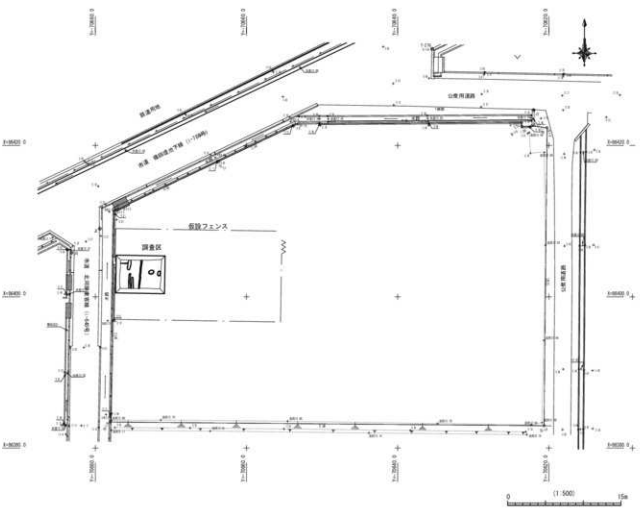


図２　調査区位置図（縮尺 1/500）

第２章　調査地域の環境

第１節　地理的環境

伊予市は、愛媛県のほぼ中央に位置し、松山平野南西部から四国山地にかけての約 195km²を市域とする。北は伊予郡松前町、東は伊予郡砥部町、南は大洲市、喜多郡内子町と接する。

伊予地域の東部には行道山や谷上山など標高 300m から 400m 程度の山々が伊予断層に沿って北東―南西方向に連なる。伊予断層の北西にはゆるやかな扇状地や低位段丘が広がり、耕作地として利用されている。伊予灘沿いには沖積低地が発達し、近年は松山市のベッドタウンとして宅地開発が進む。双海地域は、急峻な山々が伊予灘に迫り、狭小な沖積地や海岸段丘上に集落が点在する。上灘川沿いには、西南日本を外帯と内帯に分かつ中央構造線が東西に走る。中山地域は、標高 700m から 900m 近くに達する高い山々が連なり、その間を縫うように肱川の支流である中山川とその支流が南北に流れる。

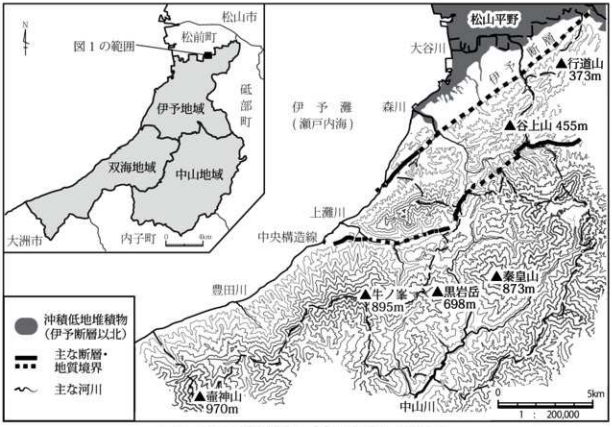


図３　伊予市周辺地形概要図 (縮尺 1 /200,000)

第２節　歴史的環境

伊予市の歴史は、後期旧石器時代から認めることができる。双海地区の東峰遺跡からは、約３万年前の石器が出土している。次いで縄文時代に入ると、草創期の石器が採集されたり、早期の土器が出土している。また高見Ⅰ遺跡では逆茂木をともなう落とし穴遺構が検出されている。前期から後期にかけては双海地域と伊予地域で遺跡が散見される。

弥生時代では伊予地域に遺跡が集中し、平松遺跡、上三谷篠田・鶴吉遺跡などの集落遺跡や行道山遺跡にみられる高地性集落も形成される。向山遺跡では広形銅矛が出土している。

古墳時代も伊予地域に集中する傾向にある。嶺昌寺古墳では三角縁獣文帯四神四獣鏡が報告されている。中期から後期にかけても横穴式石室の円墳や方墳が見られる。５世紀にはいると市場南組窯跡での初期須恵器の生産が始まることが特徴的である。集落遺跡は、伊予地域の池田遺跡、蓼原遺跡、上三谷篠田・鶴吉遺跡が弥生時代につづいて集落を形成している。

古代においては、八倉篠原廃寺や上吾川古泉廃寺などの古代寺院の存在が知られている。また伊予地域では久安 6(1150) 年銘の金銅製経筒が出土している。

中世の集落としては上三谷篠田・鶴吉遺跡があげられる。輸入陶磁器も出土しており、代表的な集落であったと考えられる。室町時代には山城が多く築かれ、伊予地域の尼ヶ古城の発掘では龍泉窯青磁や明銭が出土している。

近世の伊予市域は、伊予地域が松山藩、中山・双海地域が大洲藩に属していたが、寛永 12(1635) 年に伊予地域も大洲藩に帰属することとなる。伊予地域の郡中には港が整備され、市場村では市場焼が生産された。明治に入り、伊予地域では窯業が盛んになり、大正期に入って大量生産が行われるようになり海外輸出なども行ったという。このような伊予地域の窯業を支えたのは双海地域や中山地域での陶石の採集である。

今回の調査地は、上三谷篠田・鶴吉遺跡にあたり、上記にある古墳時代から中世にかけて栄えた集落遺跡である。既往の調査地の南に隣接するため集落の広がりを確認することができるか期待された。

第３章　調査の概要

第１節　基本層序

本調査地は休耕田の状態で掘削を行った。Ⅰ層 (1 ～ 2 層) は現代の耕作にともなう堆積で、2 層は明るい黄色系のシルト質で客土である。Ⅱ層 (3 ～ 7 層) は中世以降の堆積土と考えられ、黄褐色系のシルト質土である。Ⅲ層 (8 層) は中世の遺物包含層でわずかに遺物を含む。Ⅲ層を除去した段階で第１遺構面として、遺構を検出した。Ⅳ層 (9 ～ 14 層) は古墳時代の堆積土で、13 層 (灰色粘土)、14 層 (暗灰色粘質シルト) からは須恵器や土師器が出土した。Ⅳ層除去した段階で遺構を確認し、第２遺構面とした。Ⅴ層 (15 ～ 18 層) は古代以前の堆積層で、やや砂粒を多く含む層がある。

なお、掘削深度の制限のため、調査はこの深さまでしか行っていない。また、掘削深度が 1m を超えたあたりで、湧水が認められるようになった。季節的なものもあると考えられるが、現況の地下水位以下に遺構面が存在している。

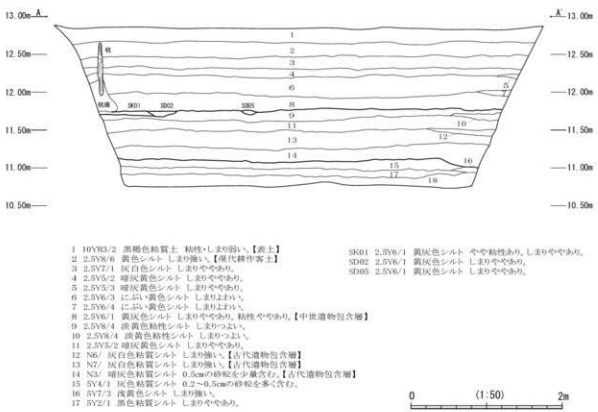


図４　調査区北壁 (縮尺 1/50)

第２節　遺構

１．第１遺構面

Ⅲ層土を除去して検出した遺構面である。第１遺構面では土坑３基、溝４条を確認した (図5)。いずれも耕作による痕跡と考えられる。遺構埋土から遺物は出土せず、遺構面直上の包含層中から中世の遺物が出土した。

SD02(図5)　調査区西側で検出した溝で、調査区北側に延長する。幅0.80m、検出長1.30m、深さ0.20mを測る。SK01と重複し、SK01を壊す。埋土から遺物は出土していない。

SK06(図5)　調査区東側で検出した土坑である。長軸0.65m、短軸0.55m、深さ0.35mを測る。埋土から遺物は出土していない。

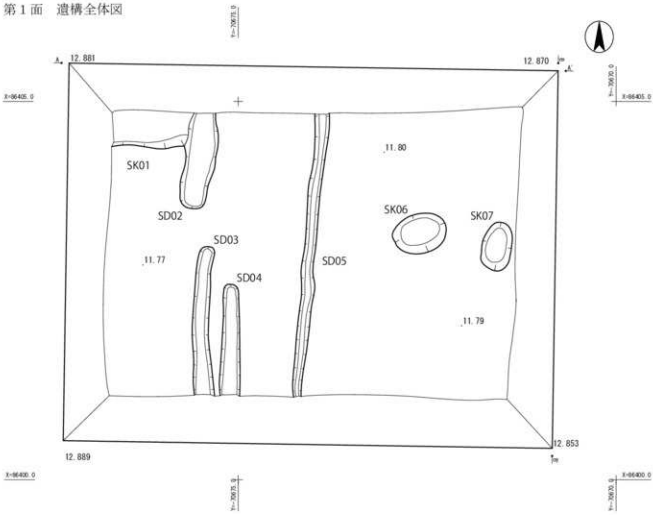
SK07(図5)　調査区東側で検出した土坑である。長軸0.65m、短軸0.38m、深さ0.33mを測る。埋土から遺物は出土していない。

２．第２遺構面

Ⅳ層土を除去して検出した遺構面である。第２遺構面では土坑１基を確認した (図6)。遺構の性格は不明である。遺構埋土から遺物は出土せず、遺構面直上の包含層中から古墳時代の遺物がまとまって出土した。

SK08(図6)　調査区西側で検出した土坑である。長軸0.41m、短軸0.32m、深さ0.15mを測る。埋土から遺物は出土していない。

第１面　遺構全体図



第１面　遺構図

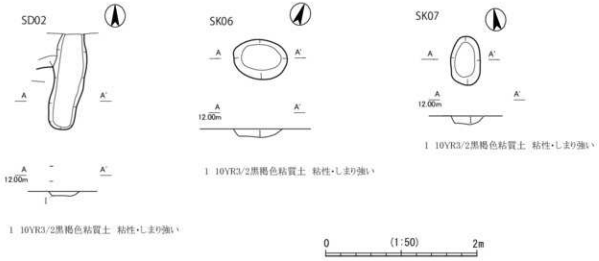
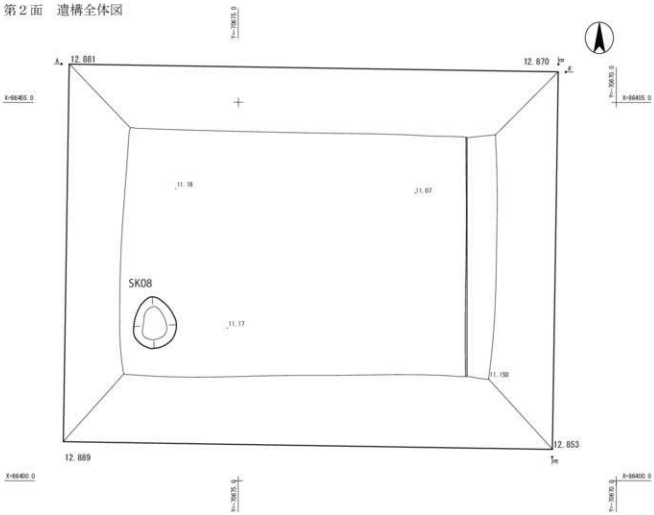


図５　遺構実測図１(縮尺 1/50)

第２面　遺構全体図



第２面　遺構図

図６　遺構実測図２(縮尺 1/50)

第３節　遺物

今回の調査ではテンバコ１箱の遺物が出土した。

遺物はすべて中世の包含層と古墳時代の包含層から出土した。１～９は第２遺構面直上の遺物包含層からまとまって出土した。10～12は第１遺構面直上の包含層から出土した（図7）。

１～８は須恵器である。１は甕である。ゆるやかに開く口縁部で、２条の凸線に囲まれた位置に波状文を描く。丸い胴部が続くと考えられるが欠損している。２～４は高坏である。いずれも短い脚部で、２は方形の透かし孔を確認できる。５～８は甕である。大型の器種で、いずれも口縁部である。口縁部が大きく開き、端部がさらに外反する。外面に凸帯が１条ある。５と６は同一個体かもしれないが器肌に違いがある。８は頸部である。須恵器はすべてロクロナデ調整である。また図示に至らなかったが、胴部片も出土している。胴部外面は線条叩き、内面は当て具痕をナデ消している。９は土師器の甕である。くの字に屈曲してひろがる。摩滅が著しく調整は不明である。

１～９は方形の透かし孔をもつ高坏などの特徴から古墳時代後期前半（6世紀半ば）の土器群と考えられる。

10・11は土師器皿である。内外面をナデ調整している。12は土師器の鉢か。直線的に開いて立ち上がる。口縁端部は平坦である。

10～12は、小片で不明であるが、12～13世紀の土器群と考えられる。

表１　掲載遺物観察表

番号	図	種別	器種	部位残存率	法量（cm）	外面調整	内面調整	色調	備考
1	7	須恵器	甕	口縁部	口径 11.5 器高 (4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
2	7	須恵器	高坏	脚部	口径 — 器高 (2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	方形透かし孔
3	7	須恵器	高坏	脚部	底径 9.2 器高 (4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
4	7	須恵器	高坏	脚部	底径 9.4 器高 (2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	
5	7	須恵器	甕	口縁部	口径 42.1 器高 (3.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
6	7	須恵器	甕	口縁部	口径 41.9 器高 (4.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
7	7	須恵器	甕	口縁部	口径 41.4 器高 (3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
8	7	須恵器	甕	頸部	口径 — 器高 (9.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	
9	7	土師器	甕	口縁部	口径 13.0 器高 (4.9)	摩滅	摩滅	黄橙色	
10	7	土師器	皿	口縁部	口径 12.6 器高 (2.3)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	
11	7	土師器	皿	口縁部	口径 — 器高 (1.9)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	
12	7	土師器	鉢	口縁部	口径 — 器高 (4.8)	ナデ	ナデ	黄褐色	

古代包含層出土遺物

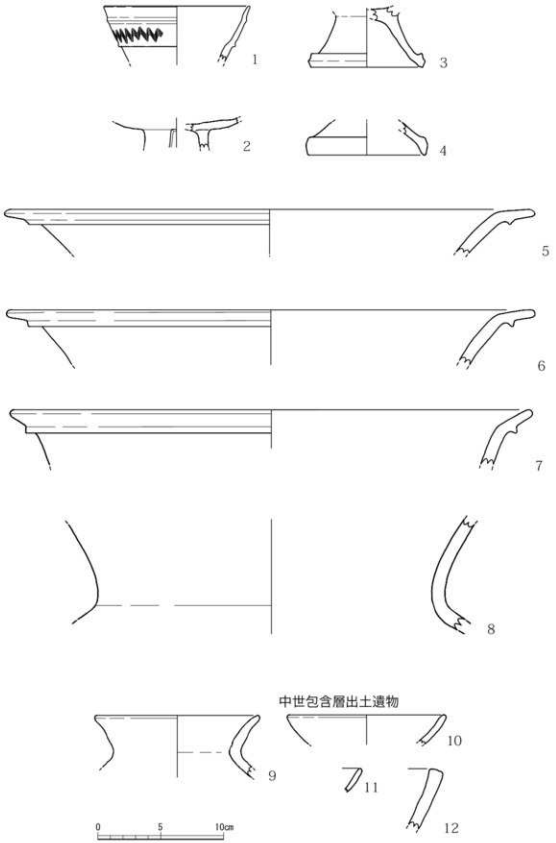


図7　遺物実測図 (縮尺 1/3)

第４章　まとめ

今回の調査では、明確な遺構を確認することはできなかったが、中世、古墳時代のそれぞれの遺物包含層を確認することができた。調査地の北側では広域にわたって調査が行われており[注1]、縄文時代から弥生時代、古墳時代、古代、中世にわたる複合遺跡であることが知られている。また、遺跡全体の地形は複雑であるが、全体的に南から北にかけて低く傾斜する傾向があり、北にいくにつれ遺構密度が高くなる。今回は非常に狭い範囲の調査であったため、不確実であるが、遺構密度が低い地域であった可能性がある。

今回の調査で確認した層序は、既往の調査で確認された基本層序に準ずるものであり、既往の調査で設定されたⅠ層～Ⅴ層にあたると考えられる。既往の調査ではⅢ層が中世包含層、Ⅳ層が弥生時代終末から古代、Ⅴ層が弥生時代に比定されている。なお、今回の調査でⅣ層とした層序からは古墳時代の遺物のみが出土している。既往の調査でのⅥ層～Ⅶ層の縄文時代相当の層は、今回の調査では掘削深度の制限 (表土からの掘削深度 2.08m まで) があったため、十分に確認することはできなかったが、湧水処理のために設けたトレンチで確認した下層では黒色土層が広がっていることを部分的に確認したため、下層に遺物包含層がある可能性は残っている。

注１　公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター　2018『旗屋遺跡Ⅱ・上三谷篠田・鶴吉遺跡』

図　　版

図版1

第１遺構面　全景（東から）

調査前風景（北から）

調査地遠景（東から）

第１遺構面　検出状況（東から）

第１遺構面　SD02（北から）

図版2

第２遺構面　全景（東から）

第２遺構面　検出状況（東から）

第２遺構面　SK08（東から）

図版3

調査区北壁

調査区東壁

図版4

出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かみみたにしのだ・つるよしいせき
書　　名	上三谷篠田・鶴吉遺跡２次
副　書　名	JR 南伊予駅前ふれあい広場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	伊予市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第17集
編 著 者 名	持田透
編 集 機 関	国際文化財株式会社　西日本支店
発　行　所	愛媛県伊予市教育委員会
発 行 年 月 日	2024年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上三谷篠田・鶴吉遺跡2次	伊予市上三谷甲241-1	38210	1	33度46分36秒	132度44分13秒	2023年12月18日～2023年12月26日	32.29㎡	合併処理浄化槽設置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上三谷篠田・鶴吉遺跡2次	集落	古墳時代	土坑	土師器、須恵器	包含層から遺物が出土した。
		中世	溝、土坑	土師器	包含層から遺物が出土した。

伊予市埋蔵文化財調査報告書

第１集　『猪の窟古墳－伊豫市猪の窟古墳発掘調査報告書－』1981
第２集　『下三谷西原・ケリヤ遺跡－県営圃場整備事業（伊予東地区）埋蔵文化財発掘調査報告書－』1989
第３集　『武之宮・六反下・六反上遺跡－県営圃場整備事業（伊予東地区上吾川工区）埋蔵文化財調査報告書－』1990
第４集　『八倉篠原廃寺・八倉宮の北Ⅰ・Ⅱ遺跡及び上三谷平松埋蔵文化財調査報告書－農林業用揮発油税財源身替農道整備事業（上野３期地区）　県営圃場整備事業（伊予東地区上三谷平松工区）－』1991
第５集　『上吾川・森埋蔵文化財調査報告書－県営圃場整備事業（伊予西地区上吾川・森工区）－』1991
第６集　『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書－県営圃場整備事業伊予東地区富田池工区－』1993
第７集　『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書－下三谷北組地区改良工事－』1994
第８集　『行道山遺跡』2005
第９集　『平松遺跡３次』2011
第10集　『伊予小学校遺跡－伊予小学校管理教室棟改築に伴う仮設校舎設置工事にかかる発掘調査報告書－』2013
第11集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－平成23年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2013
第12集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2014
第13集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ－平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2015
第14集　『高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第４地点２次－四国縦貫自動車道における（仮称）中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』2019
第15集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ－平成27・28年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2020
第16集　『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅴ－平成29・30年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書－』2024

伊予市埋蔵文化財報告書　第17集

上三谷篠田・鶴吉遺跡２次

―ＪＲ南伊予駅前ふれあい広場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発行日　2024年３月31日

編　集　国際文化財株式会社　西日本支店
大阪府大阪市淀川区宮原4-3-39
〒532-0003　℡.06-4708-5424

発　行　愛媛県伊予市教育委員会
愛媛県伊予市米湊820番地
〒799-3113　℡.089-982-1111(代表)

印　刷　奥田印刷株式会社